

# 校門坂

～ 輝く薩摩中央 ～

令和元年 7月26日 (金) 西日本新聞

剣道部の玉竜旗高校剣道大会について、西日本新聞に掲載されましたので紹介します。

玉竜旗大会の会場前であった朝礼で、一本締めをする白杵の選手たち =25日午前(撮影・菊地俊哉)



## 秘策で心もたくましく

抜き勝負の団体戦で競う玉竜旗高校

剣道大会の華は、1人で相手チームの全選手に勝つ「5人抜き」だ。抜いて勢いに乗った相手と当たる選手にとつては、気おされない精神力が試される。25日に試合が始まった女子の参加校の中には、一心不乱に剣を振るだけでなくユニークな方法で心をたくましくしてきた選手がいる。【1面参照】

## 白杵 「日本一」宣言 薩摩中央 夏に110キ踏破



「これより最高にわくわくする朝礼を始めます」

25日早朝、会場である福岡市東区の照葉積水ハウスアリーナ前の芝生広場に、白杵(大分)の3年荒井花音(48)主将の声が響いた。その後、6人の選手それぞれが目標を大声で叫んだ。大会や練習の前に実践する「すごい朝礼」の時間。

4月に赴任した松本平監督(25)が選手に呼び掛けて始めた。ポイントは、何事にも「日本一」を付けて最大限に良い状態の自分を想像して目標を叫ぶこと。「今日は日本一、粘り強く全力で戦います」「日本一、元気に楽しく試合を行います」。目標を語る選手の表情は生き生きとしており、ポジティブな気持ちのまま試合に臨んだ。荒井さんは大会出場者の中では遅い

とされる中学校から剣道をはじめた。それでも、1回戦で相手大将に2本勝ち。チームが敗れた2回戦は3人を抜いた相手先鋒に面を決め、引き分けに持ち込んだ。有言実行の実践により「忍耐のある自分に変わった」。悔し涙の後に笑顔ものぞかせた。

薩摩中央(鹿児島)の3年緋田有花主将は1年時、たった1人の女子部員だった。満足に練習試合を組めない夏休み中、船迫歩監督(48)から「出たらいいが」と誘われたのが大隅半島を北から南へ110キを力ノーと徒歩で7日間かけて踏破する青少年自然の家のプログラムだった。

途中の力ノー移動が大雨の影響で徒歩になることもあった。自然を相手にした、言い訳できない「格闘」を味わい「諦め癖がなくなった」と振り返る。初出場を果たした25日は1回戦で逆転負けはしたが、相手先鋒に面を決めた。「大きな大会で1本取れたのは報われたと思う」

それぞれが磨いた精神力を武器に、抜き勝負の最高の舞台で見せ場をつくった。(坂本公司)

東豊大三不戦1人薩摩中央  
本間(〇) 緋田有  
酒巻(●) 栞山  
谷口(×) 緋田朋  
常木(〇) 武田  
小嶋(〇) 小川